

# 栃木県における高齢女性のライフスタイルの現状 (宇都宮大学教育学部・准教授・良 香織)

## 1. 事業の目的・意義

本研究は、栃木県で暮らす高齢女性が明治～平成をどう生きたのか、主にライフイベント（中でも①身体の成長、②労働、③結婚、離婚、④出産や子育て、⑤死や障害等の家族におけるライフイベントの変化、⑥老いをどう捉えているかに着目）の変容と変遷に焦点を当て、その現状と課題を明らかにすることを目的とする。

その背景としては、すでに栃木県の高齢女性の聞き書き調査は栃木市女性史研究会（あいの会）によって行われ、「伝えたい 栃木に生きた女性たち 第1～2集（2012）」等にまとめられているが、戦時体験に焦点化されており、ライフイベント全体について明らかにした史的研究はされていない。また、栃木県は1965年に第1回「全国純潔教育研究集会」が開催された県であり、「学校および家庭における純潔教育に関する当面の諸問題について研究協議し、心身ともに健康な国民の育成に寄与する」ことを目的として企画されていることが史的研究から明らかにされている。そこでは標題として「人づくりとしての純潔教育に教師と親はどのように取り組んだらよいか」とある。こうした集会を開催した栃木県に生きる女性たちがどのようにライフイベントに関する情報を得てきたのか、いるのか、どのような課題を抱えてきたのかを明らかにすることにより、現代に通じる男女共同参画の実現と超高齢社会に向けての課題を浮かび上がらせることができるのではないかと考えたことによる。

## 2. 研究方法（又は事業内容）

明治から昭和にかけて女性のライフスタイルに関する史料を収集（市町村の資料室、行政の議事録等）した。また、県北、県央、県南の高齢女

性5名（聞き書き調査およびスクリプト作成中の4名を加えると9名）を対象とした聞き書き調査を実施した。

聞き書き調査は、半構造化面接法（質問項目を設定するが、対象者とのやりとりにより、項目内容を広げることもあり得る面接法）とし、1名毎に実施した。調査内容は、ICレコーダーにより記録し（調査対象者の許可が得られた場合に限り）、スクリプト（具体的な調査記録）を作成した。

資料分析および聞き書き調査をふまえ、申請者が担当する科目等の内容への具体的な位置づけを検討した。

## 3. 事業の進捗状況

調査実施時期の遅れにより、資料収集およびスクリプト作成は終了した。対象者が高齢であることから、聞き書き調査およびスクリプト内容の確認作業は相当の時間を要する。また聞き書き調査（4名）も継続して行っている状況にあり、本研究の総括には至っていない。上記の確認作業を終えた上で分析作業および担当等への還元に関する具体的計画の立案を予定している。

## 4. 事業の成果

前述のとおり、調査および事後の確認作業、分析を継続して行っている状況であるが、新年度の申請者が担当する科目において研究成果を積極的に組み入れることを計画している。具体的には保育論では「ライフステージと性」を設定し、これまでは乳幼児から壮年期を中心に扱ってきたが、そこに新たに高齢期を設け、本研究の成果を還元する。児童福祉論の子ども福祉の歴史の変遷を扱う中に県内の取り組みの具体例として本研究で得られた知見を組み入れる。その他も「男女共同参画社会を生きる」や「セクソロジー入門」において、具体的教材としての活用を予定している。